

令和5年度 第2回 学校運営協議会 議事録（概要）

日時：令和6年1月31日（水）

14：30～16：45

場所：大会議室

開会行事

- ・校長挨拶

議 事

- I 令和5年度「学校評価総括表」について
テーマごとに各分掌・学科長から令和5年度末の状況、自己評価及び改善方策について説明。

【ご質問・ご意見】

1. 「こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ」
委員：どのようなアンケート調査で何問ぐらい項目があるのか。
学校：例年12月に実施しているもので、18問あり、フォームで回答している。
2. 「学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ」
委員：観点別評価について、メリットとデメリットは。
学校：メリットとしては、単元テスト等、評価対象が多くあるので、生徒が取り組みやすく、生徒の活動が増えて、定期テストに頼らず評価することができることがあげられる。デメリットとしては、評価対象が増えることで、生徒、教員とも負担になっているという面がある。また、長時間のテストの経験が少ないこともデメリットの一つだが、全般として、観点別評価は順調に進められていると考えている。
委員：働き方改革は、教員のやりがいや同僚同士が協力している感覚を持てるかがポイントになる。会議は、ペーパーレスか。
学校：検討しているが、まだ実現していない。
3. 「働く意欲と働く力をはぐくむ」
委員：インターンシップは、機会の提示だけでなく、面談などを通じてきめ細かく進める必要がある。低学年からの意識づけが大切。
4. 「地域と協働して活躍する人を育てる」
委員：様々な体験の機会を与えることが重要。
委員：以前、「イングリッシュキャンプ」が実施されていたが、コロナ禍で中止になった。今後、復活させる予定はあるか。
学校：今は考えていない。まずは、実際の交流の機会の充実を考えている。
委員：歴史文化科の生徒の進路は、やはりそういった方面が多いのか。総合英語科はどうか。
学校：歴史文化科、総合英語科とも、高校で学んだことをさらに学ぼうと進路を選ぶ生徒も多い。
5. 「地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる」
委員：いじめに関しては、初期対応が大切。パーセンテージは高いが、ぜひ100%を目指してほしい。

・委員からいただいた意見を、学校関係者評価とすることを「承認」。

II 意見交換

委員：生徒に接する機会がない中で、授業を見せてもらってありがたかった。今後も生徒と触れ合う機会をつくりたい。

委員：年数回、学校を訪れるが、いつも気持ちよく挨拶してくれる。生徒たちの頑張っている姿を見るのが自分の励みにもなっている。

委員：いじめに関するアンケートで「相談できる人」とは具体的に誰か。

学校：ほとんどが友人や先輩。教員やその他の大人もあるが、この部分を増やしていきたい。教室が安心できる場所であるように学校を整えていきたい。

委員：法隆寺国際高校の強みを向上させるために、生徒の希望にも耳を傾けながら、インターンシップをより充実したものにしてほしい。募金活動のようなボランティア活動をこれからも続けてほしい。

閉会行事

・校長挨拶

・いただいたご意見を今後の教育活動に生かしていく。令和8年度入試の改編を見据え、学校の強みを生かした取組を行う必要がある。

・令和6年に本校開校20周年、令和9年には斑鳩高校開校から50周年を迎える。引き続きご支援をお願いします。